

10月（7月の1〜10日に相当）に始まる。生産ラインを確立、10月に量産を始める。生産ラインにレーザー測定機を組み込み、非接触検査で製造工程を止めずに全長検査できるようにした。自動車や家庭用の二次電池の安全性を向上させる技術として、自動車・バッテリーメーカーなどからの受託加工を見込む。



し、今回の生産ラインはレーザー測定機による非接触検査を行い、検査後は「バリレス加工」の検査成績表を製造（中央は加工されたタブリード材）

このため、従来から使用する電池材専用スリット加工機に加え、バリを極小化する2次加工装置を独自開発。従来は10割程度だったバリ・かえりを半減以下となる3割・5割にまで低減させ、フラ

国「2015年度地域力活用新事業」の全事業に36件、本格的に事業に取り組み「本事業1年目」を4件、同「本事業2年目」

一体となって展開・支援することになる。全国連は今回、次年度の事業実施を視野に「調査研究事業」や、岩見沢商工会議所（北海道岩見沢市）の「岩見沢産ワインを活用した観光プログラムの開発」などが行われる。

## 三田理化学工業

### チカラの源泉 8

調乳システム、医薬品向け滅菌容器などで国内で圧倒的なシェアを持ち、活躍する三田理化学工業。社長の千種康一は「オンラインワンでナンバーワンを目指す」を信条に、独自性の高い製品を創出して来た。同社の滅菌容器を求め、海外の製薬会社も同社工場を訪れる。「IPS細胞（人工多能性幹細胞）」向けなど、先端医療分野からも引き合

ヒットの積み重ね  
病院で乳児向けに人工乳を調乳するための「調乳システム」で、国内8割程度のシェアを持つ。哺乳瓶の洗浄、滅菌、調乳、加温など一連の機器を持つ。  
1970年頃から調乳システムの展開をはじめ、第2次ベビーブームや大学病

院の増加など時代の波に乗り普及させて来た。現在もトップシェア企業として活躍。「当社にとってちょうど良い市場規模だった」と、高シェアの理由を分析する。  
「ホームランはいらない、ヒットの積み重ねで良い」と考え、企業規模に合う市場を選び製品展開して来た。「圧倒的シェアを握

## 企業規模に合う市場選択



社長  
千種 康一氏

## 圧倒的シェアで収益確保

と、高シェアの理由を分析。陽電子放射断層撮影（PET）検査用製剤向けなど需要は増加。同社14年には、無菌状態の作業

透明な滅菌加工  
済みバイアル



スペースを確保できる装置「無菌アイソレータ」を導入。従来は滅菌加工仕上げに不可欠だったガンマ線照射が不要な環境を整えた。「長年の夢」だったガンマ線による着色のない、透明な滅菌シールバイアル瓶の提供を15年から始めた。「ここまでやる企業はない」と千種は自信をみせる。

「オンラインワンで活躍し続けられ成長できる」。明確な考えを持ち存在感を放ち続ける。

### 【企業プロフィール】

▽住所 大阪府北区大淀中2の8の2▽社長 千種康一氏▽設立 64年11月▽売上高 約8億円（14年10月期）

（火曜日に掲載）

モノづくり基盤・成長企業